



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第117号

2022年5月2日

6月11日(土)・12日(日)

## 3年ぶりの対面開催 秩父大会の準備、着々と みどり滴る柞の森でお会いしましょう!!

次々と現れるコロナ変異株に翻弄される日々が続いているが、今年度の年次総会・研究発表会・シンポジウムは対面形式で、会場は、3年越しの持ち越しとなっている秩父神社で開催することとした。

参加に際しては、可能な限り3度のワクチン接種を済ませていただくと共に、体調管理に留意いただき、マスクの着用、手指の消毒などの対策を徹底していただきたい。

詳細は3・4頁に掲載しているが、研究発表では4者が多様なテーマでの取り組みを発表、シンポジウムは、長年、地域コミュニティと神社・社叢の関わりを研究し続けてきた菌田稔理事長の基調講演を受けて、地域コミュニティの確立に向けて、神社・社叢による寄与の可能性に注目する広井良典理事をコーディネータに、パネリストが地域と社叢の多様な関わりについての研究成果を発表する。

翌日の見学会では、狼伝説に彩られた三峯神社を参拝した後、セメント採掘の一方で、神体山としての威容を復活させるべく植林活動も進

められている武甲山を訪れる。

コロナ禍前と全く同様にとはいかないが、参加者のご協力をいただきながら有意義な2日間になりたいと考えている。ぜひ、ご参加いただきたい。

なお、正会員で総会に欠席の向きは、必ず委任状の提出をお願いしたい。



緑豊かな柞の森に囲まれた秩父神社

### 社叢インストラクター 賀来理事が資格を更新

社叢インストラクターは5年ごとの資格更新認定が求められるが、今年度は、社叢保全などで旺盛に活動を継続されておられる賀来宏和理事の資格更新が認められた。

資格更新者：賀来宏和(敬称略)

### 日本学術振興会 育志賞受賞候補者の推薦を募集 意欲ある大学院博士課程学生を顕彰

当学会からの推薦を求める場合は、事務局にその旨を伝えられたい。推薦期間は5月26日～同31日。詳細は<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>に。

神社新報「鎮守の森の過去・現在・未来～そこが知りたい社叢学～」好評連載中!!



## 渥美半島・伊良湖地域の神社と社叢

話題提供：荒木田 健(愛知県神社庁田原支部長・神明社宮司)

岡村 穰(社叢学会理事・名古屋市立大学名誉教授)

コメンテータ：櫻井治男(社叢学会副理事長・皇學館大学名誉教授)

### 伊勢神宮伊良胡御厨について

渥美半島伊良湖地域は古代から伊勢との交流が盛んで、伊良胡・中山・島(福江)・保美など七郷は伊勢神宮内宮外宮二所の荘園として御厨(みくりや)と呼ばれていた。伊良湖神社は、中世の神宮領を記した「神鳳鈔」に外宮神領と記され、社伝によれば、応仁の乱以前は東三河産の蚕糸を神宮の神御衣(かみみそ)神事に合せて正・五・九月に氏子が機織りした御衣や地曳網で獲った鯛を奉納した。伊勢の御師(御祈禱師の略ともいう)は中世の口入神主から発生し、神領(御厨・御菌)からの寄進を仲介した下級神官で、明治4年に廃止されるまで、全国各地に神札「御祓大麻」を配り参詣者を神宮に導いた功績がある。伊良湖神社は平安時代初期に伊勢湾を一望できる渥美半島先端部の古山(こやま)山頂に創建されたが、明治38(1905)年の伊良湖射場用地拡大に伴い宮山東麓に村ごと移設され、現在も4月におんぞ(御衣)祭が行われている。応仁の乱で途絶えていた三河赤引糸奉獻が明治34年に復活し、田原市亀山町にある神宮神御衣御料所の足踏み式繰糸機「だるま」を使って三河産の繭から紡いだ絹糸を毎年7月初旬に旧渥美町から「お糸船」で運び、伊勢神宮の機殿で和妙(にぎたえ)に織って神前に捧げている。

荒木田氏は神宮創建以来、外宮の度会氏と共に内宮の禰宜を務めた家系で、康和年間(1100年頃)に荒木田氏が御厨を視察した際に大明神を勧請し、南北朝時代に中山が大きな集落になり、戦国期の天文年間に荒木田氏が神明社の禰宜となった。荒木田氏は宮司家のみで、分家は荒木姓などを、度会氏も海を渡ったことで「渡会」などと名乗っている。現在熱田神宮に奉職する小久保氏は代々伊良湖神社の社家として仕えてきた。

### 伊良湖地域の社叢と植生

愛知県渥美半島の植生については、その特殊性から渥美半島植物記(1984)愛知県の植生(1994)など多くの調査報告がある。愛知県の海浜植生は、護岸工事や土地造成などでほとんど消失したが、渥美半島には白山比咩神社叢や泉福寺叢など激しい季節風や潮風と乾燥の下で生育したタブノキ・ヤマモモ・スダジイなどの常緑樹に針葉樹や落葉樹が渾然一体となった典型的な暖温帯性の照葉樹林が温存されている。伊良湖神社叢である宮山原生林は昭和29(1954)

年に天然記念物「伊良湖岬宮山原生林」に国指定され、伊勢湾台風(1959)による大被害の後も、海岸風衝林へと安定遷移が進行し、樹高8m程のタブノキ・ヒメユズリハを含むヤブツバキ優占林として、半島先端部の古山原生林を含め沿岸林の潜在自然植生を留めている。渥美半島の遠州灘に面した地域には、若宮八幡社叢・若見八幡社叢・下ノ宮社叢・三島神社叢・日吉神社叢・八柱社叢・法蔵寺叢・稲荷神社叢・浜田神社叢・住吉神社叢・長興寺叢・大久保神社叢・岩崎社叢など地域の潜在植生が残された多くの社叢がある。手入れの程度はどうする? 社叢管理について考える良い機会となった。



東日本大震災社叢復興支援事業報告書を発行

8年間の全てを記録 現地調査員の生の声も 頒価 3,000円

★秩父神社：御祭神＝八意思兼命(やごころおもいかねのみこと)・知知夫彦命(ちちぶひこのみこと)・天之御中主神(あめのみなかぬしのかみ)・秩父宮雍仁親王(ちちぶのみややすひとしんのう)。「国造本紀」によると、武蔵国に先立つ約1世紀前の崇神天皇の時代に、八意思兼命を祖とする知知夫彦命が初代国造に任命され、大神を祀ったことに始まるとある。中世以降、秩父平氏が奉じる妙見菩薩信仰と習合し、妙見信仰の中心として、土着の武士団からは守護神として、庶民からは憑きもの落としや養蚕の神として尊崇されてきた。権現造の本殿は徳川家康によって1592(天正20)年に寄進されたもの。12月3日の例大祭「秩父の夜祭り」は国指定重要無形民俗文化財で、大きな屋台や笠鉾が曳行され、盛大な花火が冬の夜空を彩る。

★柞の森(ははそのもり)：本殿の後ろで社殿の静寂を保っており、現在はケヤキの大径木が優占種の森になっている。ハハソとはコナラ古語であると思われるが、ナラ類の総称とも言われ、万葉集の歌などにも登場している。道路の新設などの都市計画により往時のケヤキ群生地の様相が変化してきているが、大径木のケヤキが多数生育している。神木は境内のイチョウで胸高直径150cmはあると思われる。

★三峯神社：御祭神＝伊弉諾尊・伊弉册尊 秩父山地三峰山上に鎮座する。創建は古く、東国平定の途次、道に迷った日本武尊が山犬(狼)に導かれてこの地に至り、山河の美しさに感動して国生みの二神を祀ったと伝えられる。役小角が伊豆から飛来したという伝説があるように、修験道とも縁が深い。三峰山には三峯神社の眷属(神の使い)である狼が生息したが、狼は太古より神聖な動物とされ、「おおかみ」という名は「大神」に由来するとも言われている。狼は田畑の作物を荒らすシカやイノシシを退治してくれることから、山岳地帯の農民からも信仰されてきた。境内には狛犬ではなく狼の像が配されている。

秩父に生息したニホンオオカミは、乱獲により20世紀初頭に絶滅したが、今もその存在を信じ、残像を追い求める人もいる。現存する標本の数は少なく、いくつかは三峰山博物館に収蔵されている。

★秩父今宮神社：祭神＝伊邪那岐大神・伊邪那美大神・須佐之男大神・八大龍王神・宮中八神・役尊神(役行者＝神変大菩薩)・聖観音神・宇迦之御霊神(稻荷神)・大国主命・巖島姫・稚霊日神(わくむすびのかみ)・栲幡千千姫(たくはたちぢひめ)・菅原道真公(天神)ほか

日本有数の古社で、信州諏訪の勢力が西暦100年前後に秩父に移住、この地に湧く武甲山からの霊泉に「水神」を祀ったのが始原といわれる。境内のほぼ中央に、1944(昭和19)年、県天然記念物に指定された大ケヤキの古木があるが、この地に祀られる龍神の住み処として信仰を集め、「龍神木」と呼ばれている。

龍神が祀られるのには三つの条件があるといわれるが、ここには武甲山という霊山があり、龍神木に洞があり、龍神池の湧き水がある。この三つがそろっているため役行者は八大龍王をここに祀ったとされる。

龍神木には大きな洞があり、龍が住んでいると言い伝えられてきたが、この洞には、長年に亘り、アオバズクが飛来する。毎年5月頃に飛来し、夏の間は樹洞で子育てをし、10月頃には再び南国へと巣立ってゆく。

★武甲山：秩父市と横瀬町の境界に位置する山で、秩父盆地の南側にあり、標高は1,304mで日本200名山の一つ。秩父神社の神奈備山で、日本武尊が、自らの甲をこの山の岩室に奉納したことからこの名がついたと言われる。秩父夜祭は、武甲山との強い関わりがあるとされる。固有種のチチブイワザクラをはじめ石灰岩地の高山植物が群生し、「武甲山石灰岩地特殊植物群落」として国指定の天然記念物となっている。

武甲山の北側斜面は日本屈指の良質な石灰岩質大鉱床で、特に1940(昭和15)年に秩父石灰工業が操業を開始して以降、山姿が変貌するほど大規模な採掘が進められた。旧山頂は既に失われ、旧山頂にあった縄文時代から近代までにいたる信仰遺跡、巨岩群も消滅している。

現在、武甲山を再び緑の山に戻すべく、採掘会社も含め、地元民が植樹活動を行っている。



### 見学会ご参加に際してのお願い

- ★ バスの座席には限りがあります。なるべくお早めにお申し込みください
- ★ 発熱など体調不良の際は参加をご遠慮ください
- ★ 参加費はできるだけ事前に下記の口座にお振り込み下さい(会費用振替用紙の金額を修正してご使用ください)  
郵便振替：口座番号：00950-0-172640 特定非営利活動法人社叢学会  
銀行振込：三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会  
理事長 藪田稔
- ★ バスの車中では必ず、また、食事の折も可能な限りマスクをご直用ください。バスには消毒液を設置いたしますので、随時、ご使用ください



## 2022年度年次総会の概要



参加ご希望の方は、5月末日(必着)にて、裏面申込用紙にご記入の上、FAXもしくは郵便にてお送りいただくか、同内容をMailにてお知らせください。但し、見学会はバスが満席になり次第、締め切ります。

	時間	内容
6月11日(土) 総会・研究発表・シンポジウム	10:00~10:30	秩父神社正式参拝
	10:30~11:15	年次総会
	11:15~13:15	研究発表 伏見稻荷大社の神事・祭礼で使われる植物：渡辺弘之 ギリシャ・ミケーネ文明、ヘレニズム、北アジア遊牧民族、北魏・隋・初唐のシャーマニズムの社叢の系譜について：岡村穰 渥美半島の社叢の植生—特定植物群落のモニタリングの意義：長谷川泰洋 氷川神社の社叢づくり：濱野周泰
	13:15~14:30	昼食・柞の森拝観
	14:30~18:00	シンポジウム「社叢が紡ぐ地域コミュニティ」
	14:30~15:30	基調講演 園田稔・社叢学会理事長・京都大学名誉教授
	15:45~18:00	パネルディスカッション パネリスト：上甫木昭春：社叢学会理事・大阪府立大学名誉教授 茂木栄：社叢学会理事・國學院大学名誉教授) 高田知紀：兵庫県立大学准教授 コーディネータ：広井良典：社叢学会理事・京都大学教授
17:30~18:30	懇親会 於：秩父神社	
12日(日) 見学会	9:00	西武秩父駅集合
	10:30~12:00	三峯神社参拝と境内等拝観
	12:00~13:00	昼食！ 蕎麦を中心としたものになります。アレルギー等、召し上がれない方は、事前にお申し出ください
	13:00~16:00	武甲山植林地見学の後、秩父今宮神社へ
	16:00~16:30	秩父今宮神社正式参拝
	17:00	西武秩父駅解散

参加費(いずれもお1人)

	見学会	懇親会	シンポジウム
正会員・協力会員・賛助会員	8,000円	3,000円	無料
市民会員・同伴する家族	10,000円		
一般	12,000円	5,000円	500円

## ----- 研究発表・シンポジウムと関連行事参加申込書 -----

FAX：075-212-2973

\* ご希望の行事の( )欄に○をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

( ) 見学会：同伴 人 ( ) 懇親会：同伴 人 ( ) 研究発表・シンポジウム：同伴 人

会員番号

お名前

携帯電話番号・Mailアドレス等当日連絡先

社叢学会の発足から約半年が過ぎた2003年1月に会報「鎮守の森だより」の発行が始まった。以来、1度もかけることなく2ヶ月に一度の発行を続けてきた。特に発足当初の定例研究会の記録には、未だ色が褪せない社叢保存の意味、意義を説いたものが散見される。今回は創刊号に掲載された故上田正昭理事長(当時)による「創刊に寄せて」と第3回関東定例研究会の記録を再録する。ご一読いただきたい。

## 会報の発刊に寄せて

昨年の5月26日に、京都の賀茂御祖(下鴨)神社 糺森研修道場で設立されました社叢学会も、会員の皆様のご協力とご支援により、すでに会員数も500名をこえ、昨年の10月28日には、内閣府によるNPO法人の認証をうけることができました。

本学会は定款第2章の第3条に明記されていますように、「鎮守の森を始めとする社寺林、塚の木立、ウタキ等」を総合的・学際的に調査研究して、「歴史的・共同体的な」森の「保全・拡充・創出を図ること」を主要な目的として結成されました。

その目的を実現する第一歩として、昨年の9月から大津市・亀岡市・吹田市・桜井市・三鷹市・東京都世田谷区で社叢の調査と研究に取り組んでまいりました。また関西(大阪)と関東(東京)とで、隔月に定例研究会を実施し、多数の皆様のご参加をえて、着実な歩みをつづけています。

また、調査のためのガイドブック『森の見方・調べ方』をまとめて、本年の3月には文英堂から出版する予定です。鎮守の森の核として注目すべきものに「入らずの森」があります。その研究会も昨年の12月から具体化して、その研究成果も公刊されるは

社叢学会理事長・京都大学名誉教授 上田 正昭

ずです。

社叢をめぐる問題はさまざまですが、無計画な都市開発による森の伐採、産業廃棄物や残土などの捨て場など、法的に対処すべき課題もあります。そこで社叢をめぐる法律問題検討委員会を設けることになりました。また樹医はすでに存在しますが、樹木を面としてとらえる社叢医インストラクター研修会を本年の秋から主催することになっています。

このように本学会がスタートしてからの半年ばかりの間にもいろいろな調査や研究の動きがありました。「社叢学会ニュースレター」だけでは、会員の方々に十分な連絡ができませんので、このたびあらたに、会報「鎮守の森だより」をつくることにしました。この会報が調査と研究などの動向を伝え、さらに各地の部会を始めとする会員の皆様の活動を紹介する場となることを願っています。

本年の5月24日・25日には、國學院大學で第2回の総会および研究大会を開催しますが、スタートしてからの一年のみりと今後の方針が発表されると思います。多数のご参加を期待します。

2002年12月14日開催 第3回関東定例研究会 報告

(於 東京農業大学・世田谷キャンパス)

## 私の目で見た日本の社叢

講師 ケビン・ショート (東京情報大学環境情報学科教授)

ケビンさんは、日本の文化を素直な目で見ており、日本の里山を何度も「この風景は素晴らしいよ」とおっしゃっていた。大変楽しそうにお話になるので、聞いている我々も楽しくなる講演会であった。

ケビンさんはアメリカのニューヨークで育ったそうなので、日本で暮らし始めたのは32、3年前からである。そのような方の講演を通じて、私は日本の自然風景や、日本古来の風土の素晴らしさ、美しさを再認識させられたように思う。

我々が、懐かしく、素晴らしいと感じる風景を原風景とすると、三つの原風景が私たちの体には生きている。一つが、個人的に幼い頃体験した風景、二つ目が日本人(民族)共有に懐かしいと感じる風景、三つ目が人類共有に懐かしいと感じる風景である。私は、今まで日本の里山景観に懐かしさを感じるのには、日本人固有のものだと思っていた。しかし、ケビンさんの講演を聞いて、日本の自然風景は、人類全ての人が見ても、懐かしく、素晴らしいと感じることができる可能性があることがわかった。そのように人類すべての人が懐かしさを感じるができる日本の原風景を、我々は守っていかなければいけないことを改めて考えさせられた。

ケビンさんは、「人と自然の関係は生態学的な視点だけではなく、自然と人との思いの関係が大事な

のだ」と何度もおっしゃっていた。我々が住んでいる地域にある自然には、「文化」化した自然、「自然」化した文化、歴史、つまり風土があるはずである。

それは、その地域の人々の心の中にあり、親から子に話し受け継がれてきたものも多かったはずだ。昔話や、おまじないにはその風土、自然に対する思いを含んだものが多くあったと思う。

それが、この頃では大変少なくなってきているのではないかと感じる。我々は自然を生態学的に保全していかなければいけないと頭ではわかっている、風土に関するものを守り、子どもたちに伝えていかなければいけないということを忘れてしまいそうになっているのではないだろうか。今ある日本の自然や風景、文化は我々の祖先が守り、愛し、育ててきたものだったはずである。しかし、現代に住む我々は、それを生まれる前からあるもの、当たり前のものでとらえ過ぎ、軽視している一面があるように感じた。

今回の講演では、日本の自然風景をケビンさんに素晴らしいものであると認めていただいたことによつてはじめて、日本の自然風景や風土の重要性を再認識し、考えさせられる機会を頂いたように思う。

(文責:長谷川 素子)

## 事務局から

- いよいよ秩父大会を対面で開催いたします。緊急事態、まん延防止等重点措置は解除されましたが、感染状況は高止まりとも言われている中での開催となります。感染対策は確実に講じて参りますが、ご参加の皆さま方におかれましても、ワクチン接種、マスクの着用、手指消毒など、よろしく願いいたします。

6月の杳の森は、みどり鮮やかな季節です。久しぶりに爽やかな空気にリフレッシュされるのも一興かと存じます。私どもも再び皆さま方の顔を直接拝見できることを楽しみにしております。それまで予防専一にお過ごしいただき、お元気なお顔をお見せください。

なお、参加費はできるだけ事前にご送金ください。同封いたしました会費の振替票の金額を修正してご使用ください。

- 令和4年度(2022年4月～2023年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。銀行振り込みもご利用いただけます。三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座 6720345 特定非営利活動法人社叢学会 理事長 菌田稔 です。銀行等から郵便局振替口座へのお振り込みは、099店 当座 0172640 特定非営利活動法人社叢学会 にお願いたします。いよいよ定例研究会等の活動を再開してまいります。学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしく願いいたします。

- 下記の通り、『社叢学研究』21号への投稿を募集しています。研究者の業績評価にもつながりますので、ぜひご投稿ください。論文には至らない準備段階の研究ノートや、短報、身近な活動、社叢の訪問記(紀行文)もお待ちしています。学術論文としての体裁を整えるための書き方や、引用文献、参考文献の扱い、記載の仕方に

については社叢学会のホームページに公開しています(<http://www.shasou.org/journal/format.pdf>)。お目通し下さい。

### お詫びと訂正

会誌『社叢学研究』20号の顧問名簿に誤りがありました。誠に申し訳ありません。訂正シールを同封いたしましたので、該当箇所貼付下さいませよう願いたします。

また、p.58 図12の破線の位置がずれておりました。こちらも訂正シールを同封いたしました。よろしく願いたします。

### 編集後記

あちゃ! 久しく掲載を免れていた「お詫びと訂正」が。しかも2ヶ所もじゃないの! 編集終盤にまさかの大きな修正に大わらわ状態に。見落としてしまった。。。本当に申し訳ありません。お手数ですが、シールを貼ってくださいね。

で、総会です。気が付けばあつという間に月日は過ぎて、何しろ3年ぶりなもので、これはどうするんだっけ、あれはどうするんだっけ。おっと、あれもこれもまだ詰めてないよお。なまった体と何よりもアタマが付いて行かないじゃないの。大過なく2日間が、じゃなくて、終了後1週間くらいは感染者が出ないことを祈り続けなきゃいけないだろうなあ。参加される皆さま!! 6月に入ったら精進潔斎、よろしく願いたします!!

ってか、戦争で大変なことになっている最中に、何ともお気楽なタイヘン、タイヘン! とはいえ総会準備やら経理書類の作成やら様々な年度末処理やら業務が山積してるんですっ。とはいえ爆撃音やら火災やら命からがらの避難とは無縁の春の光に花は咲き、鳥が歌い。

6月には心おきなくタイヘンだあと大騒ぎできることを祈るばかりです。(藤岡 郁)

### 掲 示 板

### 『原稿募集!』

『社叢学研究』第20号への投稿:論文、研究ノート、短報、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題点など)」「社叢訪問記」(各1,200字程度)を募集いたします。締め切りは、論文等10月28日(金) 活動報告等12月23日(金) いずれも必着。

★ 会誌の投稿規程と論文の体裁、引用文献の記載方法を公開しています。投稿される方は、これに従って提出してください。<http://www.shasou.org/journal/format.pdf>

\* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL・FAX 075-212-2973  
URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)  
facebook <https://www.facebook.com/shasou>  
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内  
TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)